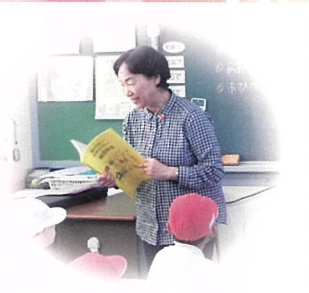


## 広島県手をつなぐ育成会「ひろしま♡あび♡隊」のご紹介

### 「ひろしま♡あび♡隊」とは

平成24年6月に旗揚げ。知的障害者(児)の保護者で組織されており、知的障害者(児)が地域で安心して暮らしていくために知的障害者(児)に対する正しい理解を促す取組を進めている。埼玉県入間市の団体の取組を参考に知的障害者疑似体験プログラム「あび王国へようこそ」を開発。体験を通して「相手の言うことが分からない。」「言いたいことが相手に伝わらない。」双方のもどかしさを感じてもらい、相手のことを思いやる気持ちを育み、知的障害者(児)に対する理解を深めていただく取組となっている。



### ◆「ひろしま♡あび♡隊」の活動

平成29年10月24日(火) 広島市立安小学校で実施された「知的障害者理解学習」の活動場面を見学させていただきました。

「ひろしま♡あび♡隊」では、対象者に応じてプログラムにバリエーションを加えて学習を展開されています。今回は、小学校3年生の児童が対象ということで、小学校(低学年)向けのプログラムを実施されました。児童自らが考え、発言できる場面を多く設け、言葉選びや伝え方も工夫されていました。

### ■プログラムの内容

#### ●パワーポイント「わかってほしい! 知的障害」

児童に質問し、考えてもらう時間を取り、困っている人の中には、覚えることが難しい人、言葉で話すことや聞くことが難しい人、みんなに合わせて動くことが難しい人もいいることを伝えていきます。



知的障害がある友達もみんなと同じように合唱コンクールやお祭りに参加したり、カープの応援にも行く。でも、うまく話せなかったり伝えられなかったり、みんなと違うところもある。そんな友達を見かけた時は「ゆっくり、やさしく、ていねいに」話してあげてほしい、教えてあげてほしいという思いを丁寧に伝えておられました。

また、「自分自身を大切にしてほしい。」ということも。そのためにはクラスの仲間と仲良くしてほしい。クラスの仲間が上手にできることを口に出してほめてあげてほしい。そうすることでみんなが元気になり、自分自身を大切にすることにつながるというメッセージを伝えておられました。

#### ●寸劇「あび王国」

「あび」という言葉しか話せない「あび王国の女王」とその「通訳者」が登場するところから始まります。「女王」からの質問に対して児童が「あび」だけを使って返答したり、体験ゲームをすることで、自分の

伝えたいことをうまく伝えられないもどかしさを感じてもらった内容となりました。

#### ●「ひろしま♡あび♡隊」のメンバーによるお話

メンバーのお子さんについて、できないことがたくさんあること、でもできることや得意なことだということをお話されました。できないことでもゆっくり時間をかければできるようになると信じて毎日を過ごしている、という親としての思いを児童に伝えておられました。



### ■受講者の声

受講者からは、「障害がある方でもできることはたくさんある。待つてあげることが良いことだと思った。」という声や「伝えようとするのが伝わらないもどかしさが良く分かった。」「自分の身近にこういった障害がある方がいなかったの、あび王国の劇は非常に分かりやすかった。自分ができることを考えるきっかけになった。」等、子どもから大人まで数多くの声が届いています。

### ■活動状況

現在、「ひろしま♡あび♡隊」の会員は54名。他県からの派遣依頼や活動見学の依頼もあり、平成24年6月～平成28年3月までで「ひろしま♡あび♡隊」の出動回数は171ヶ所、受講者総数は10,100名に上ります。

「ひろしま♡あび♡隊」の皆さんには、本会の福祉教育推進事業へもご協力いただいています。

これからも「ひろしま♡あび♡隊」の活動が、より多くの方に実践され、知的障害に対する理解がもっともっと広島のみちに広がっていくことを願いたいと思います。

この記事に関する  
問い合わせ先

ボランティア情報センター  
TEL 082-264-6408 FAX 082-264-6416



## 個人ボランティアの集い 「ぶりっぢ」の皆さん

手作りおもちゃを持参し、子育てオープンスペース「すずらんひろば高陽」を訪問しました！

ボランティア情報センターでは、「ボランティア活動に関心があるけど何ができるかわからない。」と思われる方を対象に毎週金曜日(13時半～15時半)、市総合福祉センターで個人ボランティアの集いを開催しています。この集いを始めて1年になり、参加者も毎回10数名になりました。

6月、広島文教女子大学地域連携室の金子室長からご助言をいただき、子育てオープンスペース等で使う布製の手作りおもちゃを作ることになりました。かわいい子どもたちの遊ぶ姿を思い浮かべながら、心を込めて作り上げました。

9月22日、出来上がった手作りおもちゃを手にはずらんひろば高

陽を訪問しました。皆様が温かく迎えてくださり、子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごすことができました。おもちゃ作成の追加依頼があり、現在は、布製のボールや子ども用のエプロンなどを作っています。また、



両端にスナップがついていて輪にしたりつないで長くすることもできます

すっかり仲良しに!



メンバーの中で、参加したボランティア活動について情報交換をすることでボランティア活動が広がっています。ボランティア活動に関心のある方は、ぜひ、個人ボランティアの集いをのぞいてみてください。

※すずらんひろば高陽  
(高陽タウンセンタービル  
フジグラン高陽と同じ敷地内)

この記事に関する問い合わせ先 ボランティア情報センター  
TEL 082-264-6408 FAX 082-264-6416

## 平成29年度第2回福祉サービス利用援助事業 「かけはし」生活支援員研修会の報告

実施日 平成29年10月19日(木) 講師 県立広島大学 保健福祉学部 人間福祉学科 講師 手島 洋氏  
会場 広島市総合福祉センター 参加者 福祉サービス利用援助事業 生活支援員他54名



今、国の目指す福祉は地域の役割を重視しています。個別支援である「かけはし」においても地域に根差した活動が求められています。講義では「地域における権利擁護とは何か」を学習し、グループワークでは、生活支援員として、また地域住民として何ができるかを考えました。

講義では、昔は家族で行っていた介護等ができなくなり、社会的サービスを受けるようになった背景や、福祉・保健・医療関係者の専門家だけでは対応が困難になっている現状。地方では地域のつながりがまだ強いと思われるが、既にそうではない事実。生活支援員としての気づきを発信することの大切さや、専



門職との協働が重要であることなど、手島先生ご自身の体験を交えた分かりやすいお話をいただきました。

グループワークでは、今後どのような活動をしたいかや、「かけはし」を良くするため事務局や行政に提案したいことなどを協議し発表しました。活動する中で感じていることを、具体的に書き出し「見える化」することで、生活支援員同士で情報共有することが出来ました。

### 参加者の声

- 権利擁護とは言葉も難しいが、それを行うのもなかなか大変なことだと感じました。
- 生活支援員としての役割、資質、利用者が自分らしく生活できるための支援を再度考えたいと思います。

この記事に関する問い合わせ先

福祉サービス利用援助センター TEL 082-264-6406  
FAX 082-264-6437

## 広島市くらしサポートセンターについて

広島市くらしサポートセンターは、生活保護を受給するまでではないものの、様々な理由により経済的な面で生活に困っている方の相談窓口です。

### ●家計相談支援事業を活用した事例の紹介

#### 状況

80代の母親と50代の男性の2人暮らし。計画的にお金を使うことができず、日々の生活が苦しいとの訴え。借金の督促などもあり、精神的にも参っていました。

#### 対応

日々の家計管理については、当センターの「家計相談支援事業」を利用し、レシート等のチェックにより収支の確認をしたり、お金の使い方について助言をしました。また、借金については債務整理の必要があったため、弁護士相談への同行も行ったところ、過払い金が発生。現在も家計相談支援を受けながら生活を続けています。



当センターは、電話や来所だけでなく、**相談員が外向く訪問相談も可能です。**サブセンターのない区でも、相談者の希望する場所まで相談支援員が出向きますので、遠慮なくご連絡ください。

本部 (東区、南区、安芸区担当)	☎082-264-6405
中部サブセンター (中区担当)	☎082-545-8388
西部サブセンター (西区、佐伯区担当)	☎082-943-8797
北部サブセンター (安佐南区、安佐北区担当)	☎082-831-1209



『広島市域の社会福祉法人が連携して取り組む新たな地域貢献事業 提案書』の中で「生活困窮者の就労支援」を掲げています。今回は「広島市くらしサポートセンター」と連携し「就労訓練事業」に積極的に取り組んでいる「山まゆ」を紹介します。(取材:K)

## 地域貢献に積極的に取り組む社会福祉法人 社会福祉法人 可部大文字会 老人福祉施設 山まゆ



「就労訓練事業」では直ちに就労が困難な人のために、その人に合った作業機会を提供しながら、一般就労に向けた支援を行います。「山まゆ」はその受入れ事業者として登録しています。

平成14年の設立から施設長として勤めている梶原さんは、元々福祉の教育現場で人材育成に携わっていました。「山まゆ」ができた当初から、地域のイベントに参加したり、地元の高校生を授業の一環で受け入れたり、子育て支援で広島東洋カープの選手を招いて野球教室を行ったりと、様々な人材育成、地域貢献をしていました。

就労訓練を受け入れるには、現場でサポートする職員が必要になるため、職員の協力が不可欠です。常日頃から「福祉の原点は人を生かすこと、社会福祉法人は地域貢献をするもの、施設開所当初から高校生を受け入れて人材育成をしてきた実績があるからできる。」と職員に伝え、理解してもらおうことができたそうです。職員にとっては、教える経験を積むことで、仕事への自信と誇りと共感、喜びが生まれ、モチベーションも上がります。

また、「山まゆ」では、賃金を支払う雇用型にこだわって受け入れています。賃金をもら

うことで仕事への責任が生まれ、人として認めてくれたという喜びが利用者に生まれるそうです。そして、本人やサポート職員の意向を十分確認し、できることから徐々に携わっていくことが大切とのことでした。

今後も、梶原施設長は社会福祉法人としての使命を持ち「共に築き 共に喜び 共に支え合い」をテーマに人材育成を地域とともに、力を入れていきたいそうです。そして「就労訓練事業」の受入れ事業者が増えるためには、理解が重要であると話してくれました。



理事長・施設長  
梶原 澄子さん

### 就労訓練事業 利用者の声

●Aさん(女性・30代)

現在は職員として勤務中

こちらでは自分が苦手なことではなく、できること、簡単な仕事から始めてもらったことがよかったです。自分にもできると自信ができました。最初は食器洗い、掃除から始めて、今は洗濯もしています。職員

の方には親切に教えてもらいました。自分のしたことで他の方が喜んでくれたのが嬉しかったです。今は、無理せずにできる週3日、7時間の勤務です。今後も「山まゆ」で頑張ってみようと思っています。

●Bさん(男性・30代)

体験を始めて1ヵ月半

社会に出たいという気持ちはありましたが、仕事をするにはハードルが高いと感じていました。このような体験から始められてよかったです。自分のペースで週3日、5時間、施設の掃除を担当させてもらっています。生活リズムが整い、体調もいいです。今は3ヵ月を目標に頑張っています。

とても温かい人的環境を提供して下さっていることが実感できる取材でした。地域で生活困窮者の自立の支援ができるよう社会の理解、トップの理解、現場の理解が進むことを願っています。

●この記事に関する問い合わせ先

福祉課 事業係 TEL 082-264-6404  
FAX 082-264-6413

## ひろしまの地域福祉推進「チャレンジ応援」助成事業

### ひろしま Sotto のご紹介

この助成事業は、広島市域の地域福祉向上を願ってチャレンジしている、広島市民による先駆的・開発的取組を支援しています。平成29年7月1日から8月15日の期間で公募した結果、12団体への助成が決定しました。今回はこの助成事業を活用して取組をされている「ひろしま Sotto」を紹介します。



ボランティア養成講座の様子



代表 武田 慶之さん  
(連絡先: 090-9114-5872)

ひろしま Sottoは自死にまつわる苦悩を抱える人々の、心の居場所づくりをする団体です。Sottoは京都に本部があり、仙台と広島に支部があります。「ひとりぼっちにしない。」を掲げ、京都では、電話相談、メール相談、居場所づくりを行っていますが、広島市では平成28年12月24日にプレ企画を実施し、平成29年から本格的に活動しています。

ひろしま Sottoは現在、居場所づくりに力を入れています。誰もが気軽に参加できる「あったかかふえの集い」を開催し、ひとりで悩んでいる人の気持ちに寄り添っています。

代表の武田さんは「なかなか解決することはできないけれど、心が少しでも軽くなるように居場所づくりをしています。自分はひとりではないと、思ってもらうことが重要です。」と語ってくれます。また、活動して嬉しなのは、「抱えていた問題が解決し、ほんの少しですが気持ちが楽になったので、卒業します。」というお礼の報告をもらった



りすることだそうです。「お礼を言われるためにやっているわけではないけれど、報われた気がして気持ちが楽になります。」

現在、スタッフ10人と、平成29年10月に行われたシンポジウムで関心を持ち、新たにボランティアを希望してくれた5人の合わせて15人で活動しています。まだまだスタッフが足りないので「あったかかふえの集い」の開催に制限があるそうですが、いずれは月2回程度開催できるようにしたいそうです。そのためにもボランティアをしてくれる方を募集しています。ボランティアの中には、以前に自分も同じ悩みを抱えていたり、家族を自死で亡くした人もいます。また、ボランティアのスキルアップを図るために「チャレンジ応援」助成事業の助成金を活用して、ボランティア養成講座を開催し、京都から講師を招いて、ロールプレイングなど具体的な研修を行っています。今後は「うつ」など精神的な病気の人にも対応できるように、精神科の医師との連携も視野に入れていきたいそうです。

誰にも相談できない悩みを持つ人は多くいます。その人たちの心のよりどころになる活動が多くの人に知られ、支援の輪が広がっていくことを願っています。

次回「あったかかふえの集い」

平成29年12月27日(水) 17時 参加費無料  
広島市中区八丁堀1-8 エイトビル2F  
【申込先】 hiroshimasotto@gmail.com



## 広島市社会福祉大会を開催しました

平成29年11月29日(水)



長年にわたり社会福祉の向上に尽力された方々を表彰し、なお一層の活躍を期待するとともに、コミュニティデザイナーの山崎亮氏(株)studio-L 代表取締役)から『民の力でこれからの地域福祉をどう進めていくか』をテーマにご講演いただき、地域福祉の更なる充実に向けた地域づくりの在り方について確認しあうことを目的に開催しました。

講師の山崎氏は、軽妙なトークで会場を惹きつけ、社会福祉という活動に、楽しさ、格好良さ、おしゃれ等の要素を取り入れていくことで活動が長続きし、その活動が様々な良い相乗効果を生

んでいくのではないかとということ、事例を交えてお話しされました。

今年度は、個人315名と24の団体が表彰を受けられました。受賞された皆さま、おめでとうございます。

広島市総合福祉センターが平成28年12月にオープンしたのを機に、この度は、同センターで開催させていただきました。初めてのことで、至らない点が多々あったかと思いますが、どうかご容赦ください。ご協力ありがとうございました。

## 赤い羽根共同募金へのご協力をお願いします。



平成29年10月1日、基町クレド広場において、厚生労働大臣、中央共同募金会会長のメッセージが広島県知事、広島市長、共同募金会会長に伝達され、第71回「赤い羽根共同募金運動」が始まりました。

広島市共同募金委員会は、引き続き八丁堀交差点付近において、この運動により多くの理解と協力が得られるように、広島市長、市内各区社会福祉協議会会長及び関係団体の協力のもと街頭募金を行い、募金を呼びかけました。

本年度も、募金目標額を昨年同様「1億円」として運動に取り組んでおり、平成29年11月15日現在で5,615万円あまりの募金のご協力をいただいています。

寄せられた募金は、皆様のお住まいの地域の身近な福祉活動や、様々な福祉課題に取り組むボランティア活動や、地震や豪雨などによる大規模災害が発生した際に、被災地で求められる支援活動に即応する資金「災害準備金」として活用されています。

「じぶんの町を良くするしくみ。」を目指して、平成30年3月31日まで募金活動に取り組んでまいりますので、「赤い羽根共同募金運動」へ格別のご理解とご協力をお願い申し上げます。



あかげさまで70周年

問い合わせ先 広島市共同募金委員会

TEL 264-6400 FAX 264-6437  
〒732-0822 広島市南区松原町5-1 BIG FRONT ひろしま6階  
広島市総合福祉センター内

## まごころ銀行へのご協力ありがとうございます。

本会まごころ銀行に、次の皆さまから尊いご寄附をいただきました。厚くお礼申し上げます。(平成29年9月1日～11月10日)

- 一般寄附者 —— 林 俊之 様/ゆるやかネット 代表 重富 寛 様
- 物品預託者 —— 【食器・調理器具等】 中国電力株式会社 様

皆さまからお寄せいただいた浄財は、高齢者・児童・障害者の福祉など明るい地域社会を築くために活用させていただきます。

## 社会福祉法人広島市社会福祉協議会賛助会員を募集しています。

本会の活動にご賛同いただき、「賛助会員」としてあなた(貴社・団体)も地域活動に参加してみませんか。納めていただいた賛助会費は、地域福祉推進の基礎的団体である地区(学区)社会福祉協議会の拠点事務所の運営等のために使います。

賛助会費 法人 1口 10,000円 個人 1口 1,000円

※口数は何口でも結構です。

※本会は社会福祉法人ですので、個人の場合は「寄附金控除」「住民税額控除」、法人の場合は「法人税法上の損金算入」ができます。

賛助会員へのご協力ありがとうございます。

次の方々からお申込みをいただきました。【平成29年4月1日～11月30日(敬称略 順不同)】

法人 95社 128口

協同組合広島総合卸センター、株式会社テレビ新広島、いでした内科・神経内科クリニック、株式会社福屋、ファーマシー薬局広島タワービル、広島修道大学、楽々屋草津店、広島文化学園大学・短期大学、広島流通センター株式会社、日本基準寝具株式会社、広島医療生活協同組合、財団法人中国電気保安協会、株式会社 Taisei、株式会社インパルスコーポレーション、株式会社紀陽、沖本眼科、からだ元気治療院、正岡病院、山本皮膚科医院、広島パークヒル病院、広島シーサイド病院、マツダ病院、西広島リハビリテーション病院、ぎおん浄廊(有信株式会社)、株式会社桐原容器工業所、その他70社

個人 1,797人 2,786口

埴田 義昭、原田 耕二、檜山 憲司、高広 義明、佐々木 肇、新長 静夫、松前 和雄、行廣 真明、吉岡 正裕、及川 享、金光 義雅、伊達 秀宣、長 敏伸、谷本 睦志、飯富 和雄、川添 泰宏、高宮 裕介、滝川 卓男、森川 伸江、久保下雅史、福岡 美鈴、谷脇 秀視、南浦 詳仁、松出 由美、竹井 圭子、勢良 寛、清水 貴司、高木 俊一、福本 正弘、細田 益啓、岩木 康生、久保 富嗣、栗栖 修二、田原 範明、澳 和明、糸山 隆、湧田 耕辰、久保 雅之、谷 康宣、西本 雅一、重村 隆彦、川谷 卓哉、その他1,755人

ご協力いただきました皆さま、ありがとうございました。これからも、地域福祉を推進する本会をご理解いただき、様々な地域活動に積極的に参加していただくとともに、今後も賛助会員としてご支援ご協力をお願いいたします。

◆このページに関する問い合わせ先◆ 総務課 TEL 082-264-6400 FAX 082-264-6437